

そほう

組

報

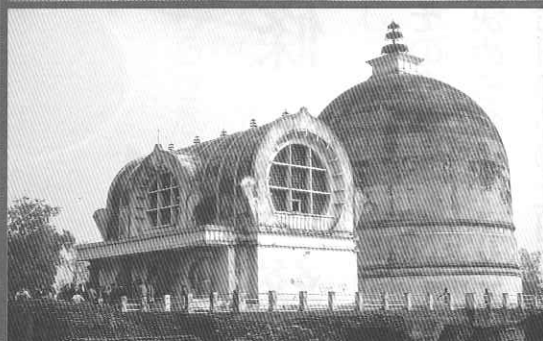
かながわ

No.22 2009.3.15

身近なお寺の情報誌

クシナガラ涅槃像

釈尊入滅の地クシナガラの涅槃堂に横たわる6メートルを超える涅槃像。經典の通り頭北面西で金色の布が掛けられ輝いているように見える。この像は5世紀の始めハリバラという信者が寄進したものが奉られている。



クシナガラ涅槃堂 手前のお堂が涅槃像が安置されているお堂。後方のドームはクシナガラの仏塔のカバーで、オリジナルはこのドームの中にある。周辺の僧院跡もそれらしい古さを感じるがだいぶ修復されている。



クシナガラ 釈尊入滅の地クシナガラ。涅槃像が横臥する涅槃堂の周りには、仏教華やかし頃の僧院跡がある。この僧院群は2、3世紀頃からイスラム教徒がインドに侵入する12世紀頃まで使われていたという。修行僧は釈尊ゆかりの地に僧院を造り勉強に励んでいたのだろう。

ご命日

蓮向寺教会 北條 大慈

亡くなられた日を命日といいます。法事に当たる年は、その命日を基本にしながら、家族の都合を聞きながら、お寺と日程を調整して、法事の日程が決められます。最近では、会社勤めの方も多くまた子供さんや孫さんの学校を考えると、大抵命日の前の土日に希望されることが多いです。

数年前で門徒のお宅にお盆参りの時の話です。

お参りを済ませた後、お茶を飲みながら門徒さんから法事の打合せの話になりました。「秋に法事があるんですが、二十六日の命日の前の土日のご都合はどうですか？」と尋ねられ答えようとしたら、突然小学生のお孫さんが、「何で二十六日にしないの？」と言いました。門徒さんと私は、一瞬「えっ」と目を見合わせました。私が「どういことなの？」と尋ねると、その子は「おじいちゃんが大好きだった。そのおじいちゃんの命日は二十六日でしょ」と。お父さんが「それはそうだけど、学校があるじゃないか。お父さんも会社があるし」と諭そ

うとすると、「休めばいいじゃない。おじいちゃんの命日は、大切な日だもの」と答えました。その言葉を聞いたとき、有難いなあと思いながら、目の前で困惑しているお父さんを見かねて、「お嬢ちゃんの言ってくれたことは、とてもありがたいし嬉しかったよ。でも、会社も学校も大切なことだからね」と諭しました。まだ納得できない顔をしていたので、帰り際に「今日の気持ちが変わらないで、大きくなってね」と言って別れました。

私たちは記念日を大切にします。特に自分の誕生日など自分に関することは尚更です。また、祝い事に記念日が多いように思えます。

愛しい人が亡くなることは、悲しく辛いことです。その悲しみを縁として、残された者は大いなる繋がりの中に「私が居る」ことを教えていただくのでしょうか。

最近では義務的に行われている傾向も強くなっているようです。その子にとっては、学校や会社を休んでまで勤める意味があるんだと感じられたのだと思います。

あらためてその子の言葉に、恥ずかしくなる思いをしました。法事の本来の意味を忘れていました。

命日は、愛しい人が亡くなった日ということですが、亡くなって悲しみのままだけで終わらせてはとも思います。なぜなら、その悲しみを悲しみで終わらせないと救いにとってくださる阿弥陀さまの願いを聞かせていただく日でもあるからです。

① 日野誕生院(浄土真宗本願寺派)

宗祖・親鸞聖人が生まれた場所は、日野家の先祖である日野資業が建立した法界寺(通称・日野薬師、真言宗醍醐派)のあたりといわれる。誕生院はこの法界寺に隣接して昭和六年に建てられた本願寺派の施設である。産湯の井戸がある。

■所在地 京都府京都市伏見区日野西大通町十九
■アクセス 京阪「六地藏」より京阪バス「日野誕生院前」下車



誕生院回廊



誕生院本堂

② 青蓮院(天台宗)

宗祖はここに九歳のとき慈円僧正を訪ね得度した。まだあどけない少年に面会した慈円は、すでに日が暮れていたことを理由に出家を延期させようとした。ところが宗祖が「明日ありと思ふ心のあだざくら 夜半に風の吹かぬものかは」と詠んで、無常の世なればこそ思いの変わらぬうちに出家したいとの決意を示し、その日のうちに得度式が行われたという。



青蓮院植髮堂



青蓮院庭園

青蓮院は、知恩院の北に位置する。境内には親鸞聖人の「御得度の間」や、得度のときに剃り落とした髪の毛を安置する「植髮堂」などがある。東山の景観を取り入れた庭は、相阿弥の作といわれる。

■所在地 東山区粟田口三条坊町
■アクセス 市バス「神宮道」下車徒歩三分。地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩五分

③ 比叡山延暦寺(天台宗本山)

伝教大師最澄が延暦七年(七八八)に創建。最高学府として、法然、栄西、道元、日蓮らの鎌倉仏教の祖師方を輩出した。宗祖は九歳から二十九歳までここで修行に勤しんだ。比叡山には東塔、西塔、横川のエリアがあり、総本堂は東塔の根本中堂である。宗祖がおもに過ごした場所は横川で、堂僧として不断念仏を修し勉学に励まれたという。また東塔の根本中堂から南へ約一・五キロ程山道に入った無動寺谷は回峰行の拠点とされ、ここにも宗祖が修学したとされる大乗院



大乗院

院がある。西塔の聖光院跡にも常行堂があり、宗祖が修行していたと伝えられる。

■所在地 滋賀県大津市坂本本町
■アクセス JR「京都」「阪急」鳥丸、「京阪」三条、「京阪」出町柳の各駅からドライブインバス、他にもJR湖西線「比叡山坂本駅」からバスで「ケーブル本」乗換「ケーブル延暦寺」下車等。

④ 六角堂

六角堂は、正式には「頂法寺」といい、本尊は聖徳太子の本地と崇められる救世観音。もとは天台宗だったが現在は単一の寺院で、華道家元の池坊の総事務所も置かれている。

宗祖は比叡山で二十一年間勉強するが、きびしい修行をなしてけても、なお人間の苦悩や迷いを解決する道を見いだせず、ましてや修行に専念できない民衆には救いの道が開かれていないことに行き詰まった。そこで比叡山を下り、在家仏教の先達である聖徳太子にゆかりの深い六角堂に参籠する。九十五日の明け方に聖徳太子の示現を受けて、吉水に庵を結んでいた法然聖人を訪ね、浄土の真実の教えに出遇うことになった。



六角堂

⑤ 安養寺(時宗)

法然聖人の吉水の庵の跡を伝えるのが、安養寺である。現在の知恩院の南側に位置する。

宗祖にとつて師法然聖人との出遇いは、のちに「しかるに愚禿釈の鸞建仁辛酉の曆、雑行を棄てて本願に帰す」(教行信証)と述懐するように、人生の一大転換をもたらす出来事だった。ときに宗祖二十九歳、法然六十九歳であった。のちに念仏停止を受けて流罪に処せられるまでの六年間、ここで子弟の契りを深くした。



安養寺本堂

■所在地 京都市東山区円山町
■アクセス 市バス「祇園石段下」下車徒歩十分

⑥ 岡崎別院(真宗大谷派)

吉水時代、宗祖はこの地に庵をむすび、ここから法然聖人のもとへ通つたと伝えられる。境内には、宗祖が越後流罪におもむくとき、自分の姿をうつして名残を惜しんだとされる姿見の池がある。

■所在地 京都市左京区岡崎東天王町
■アクセス 市バス「岡崎神社前」下車徒歩一分



岡崎別院



鏡池岡崎別院

⑧ 善法院跡

郎が宗祖の見解を伺いに上洛したという話を伝える光円寺が、その旧跡といわれている。

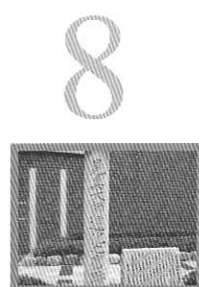


光円寺

■所在地 京都市下京区松原通新町西入藪下町七
■アクセス 市バス「鳥丸松原」下車徒歩七分

宗祖は二六二(弘長)年十一月二十八日(新暦では翌二六三年二月十六日)、弟の尋有の善法院で九十年の生涯を終えた。その入滅の地としては「御伝鈔」に「禪房は長安馮翊の辺、押小路の南、万里小路より東」とあり、諸説あるが現在の御池中学校のあたりとされる。以前は校庭に「見真大師遷化之旧跡」と刻まれた石碑が建っていたが二〇〇六年に整備され、現在は柳馬場通に面して石碑が設置されている。

■所在地 京都市中京区御池通柳馬場北
■アクセス 市バス「河原町御池」下車徒歩五分



善法院跡

⑨ 角坊別院(浄土真宗本願寺派)

もう一つの入滅の地としてあげられるのが角坊で、ここも古くは「押小路」と呼ばれていたことから善法院跡といわれる。江戸末期、宗祖六百回忌法要にあたり堂を建てて顕彰しものである。

■所在地 京都市右京区山ノ内御堂殿町二五
■アクセス 京福電鉄嵐山線「山ノ内駅」下車徒歩五分。東西線「太秦天神川駅」下車徒歩八分



角坊別院



⑩ 延仁寺(真宗大谷派)

「御伝鈔」に「洛陽東山の西の麓、鳥部野の南の辺、延仁寺に葬したてまつる」とあるが、その延仁寺旧地については諸説あり定かでない。現在の延仁寺は明治二六年に東本願寺第二代殿如門主のときに既存寺院を延仁寺と改称し復興したものである。東北側の山道を行くと茶毘所跡がある。

■所在地 京都市東山区今熊野字総山
■アクセス 市バス「今熊野」下車徒歩二十分

⑪ 崇泰院(浄土宗)

宗祖の墓所は当初「鳥部野の北の辺、大谷」に納められていたが、滅後十年を終った文永九年(一二七二)に末娘の覚信尼によつて「おなじき麓よりなほ西、吉水の北の辺」に改葬。ここに廟堂を建て宗祖の御影像を安置した。これが大谷廟の起源であり、やがて第三代覚如上人のときに本願寺と寺院化した。現在の崇泰院の地がこれにあたる。寛正六(一四六五)年、第八代蓮如上人在世のときに、比叡山僧兵によつて破却されるまで、この地に本願寺が存在した。



崇泰院

■所在地 京都市東山区林下町
■アクセス 市バス「知恩院前」下車徒歩五分

ちょっと一息

仏法には明日と申すことあるまじく候ふ。
 仏法のことはいそげいそげと
 仰せられ候ふなり。

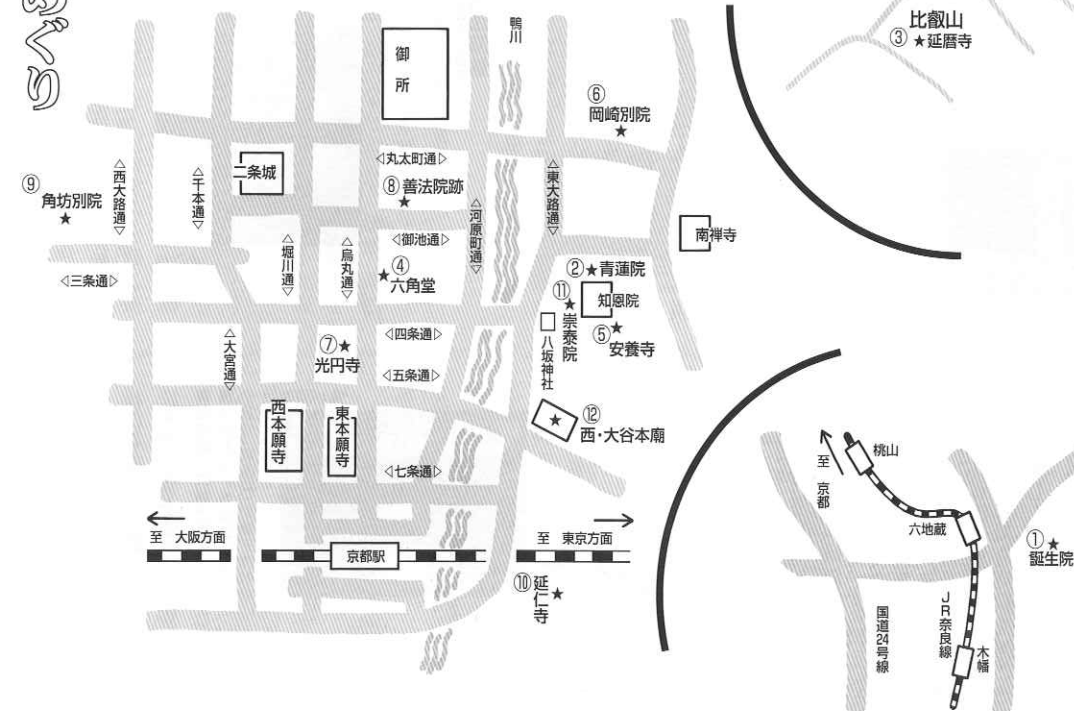


れんによしょうにん ごいちだい きき がき
 『蓮如上人御一代記聞書』(102条)

私たちは日常生活においても、やらなければ成らない事を、後回しにしがちです。ましてや、生死の問題となると「私にはまだまだ先のこと」としています。

蓮如上人は、後生の一大事（いのちの行く先）は待ったなしであって、後回しにしてはならない。今すぐに仏法に出会い、生死の問題を解決することの重要性をお示しくくださっています。

特集 京都周辺の親鸞聖人御旧跡めぐり



茶毘所大谷本廟

⑫ 大谷本廟(浄土真宗本願寺派)
 現在、宗祖の墓所は東山五条坂の大谷本廟であり、通称「西大谷さん」で親しまれている。寛正の法難後も、宗祖の墓所はもとの大谷本願寺の地で護られるが、慶長八(一六〇三)年、知恩院拡張造営に際して幕府の政策で現在地に移転した。今の大谷本廟のあたりが延仁寺の旧地であるといわれている。

■所在地 京都市東山区五条橋東
 ■アクセス 市バス「京阪バス」五条坂下車

本願寺の「山号」

鳥野辺の「おおたに」(現在の大谷本廟あたり)に親鸞聖人は、火葬されお墓(廟)を建てました。これが、本願寺の始まりです。

鳥野辺とは、北の連台野、西の化野に並ぶ京都三大墓所であり、その中の「おおたに」は、藤原一族の火葬の場でした。親鸞聖人も藤原一族の出身であったので、この地で火葬されたのでしょう。

「おおたに」とは「龍」の字と「谷」の字を合わせた漢字一字で次のように書きます。『龍』だから、本願寺は「龍山 本願寺」(おおたにざん ほんがんに)と名乗りました。後に、「龍谷山 本願寺」(りゅうこくざん ほんがんに)と改めました。

親鸞聖人略年譜					
幼年時代	叡山時代	吉水時代	越後時代	関東時代	帰洛時代
一七三 誕生 幼名を松若丸といった。幼くして父に別れ、八歳で母を亡くしたといわれる。	一八一 出家得度 伯父日野範綱に連れられ、青蓮院にて慈鎮和尚慈円のもとで得度。叡山に入り、堂僧として修行。	二〇一 建仁元年 29歳 法然に入門	二〇七 承元元年 35歳 念仏停止・越後流罪 「僧にあらず俗にあらず」の立場を表明。恵信尼と結婚し家庭を築きながら念仏生活を送る。 建暦元年 39歳 流罪赦免	二二四 建保二年 42歳 関東へ移住	二二四 建保二年 52歳 主著『教行信証』を起草。 晩年まで著述活動を続け、関東の門弟たちの面会にも対応する生活を送る。 文暦二年 63歳 京都へ帰る
二六三 弘長二年 90歳 善法院にて往生 旧暦では一二六二年一月二十八日、新暦では翌二二六二年一月一六日。					

「無限の生命の

中のま

一

先日、このところ一年が過ぎるのがとてもはやくなってきた感じがするのですがなぜでしょうという話題になりました。子どもころには、冬休みがはじまつてお正月になるのがずいぶん長く感じられたものだったものです。今では、やらねばならない仕事が増えるのに時間だけがいたずらに過ぎていくような気がしてなりません。

「世の人、薄俗にしてともに不急の事を争う」と

この言葉は、『仏説無量寿経』の中に出てきます。「世の中の人々は、愚かにしてともに急がずともよい事を争う」ということです。田があれば田が有ることによって憂え、田がなければ田がないことによって憂うのが人間であると説かれています。あれば有ることによりなければないことにより悩む人間の姿的確

に表現しています。

アメリカ発の経済危機が、日本の経済にも大きな影響を与え始めています。大会社の人員削減は容赦なくはじまりました。会社の経営者は、会社の身を守るために先手で人員削減をして保身にかかるうとしています。それが企業経営の常道なのかもしれません。皆で荒波に絶えて時を待つなどという時間は、できるだけ短くして、身軽になることをのみを考えているとは思えません。争いに勝つことにのみ汲々としているということなのでしょう。派遣社員や契約社員という会社にとって都合のよい存在は、今こそ見直されるべきでありましょう。雇用の質がここまで変化していくと、社会全体のバランスが崩れ、平和と安全が脅かされる事態が起こらないとも限りません。今何を急いでやらなければならないのか、個人も社会も、わけがわからなくなっているのではないかと思います。

二

親鸞聖人は、「生死出ずべき道」を求め生涯を送られました。蓮如上人は、「後生の一大事」を説かれました。過去・現在・未来の三世に渡り人生を見つめていくそ

の姿勢は、時間を今だけ切り取って考えるのではなく、無限の生命の中の今を見つめていく広大な視点があつたということが言えると思います。

三

NHKの朝のドラマ「瞳」を覚えていらっしゃるでしょうか。昨年の九月まで放映されていました。ついこの間のことに遠い昔の話のような感じがいたします。この物語、主人公の瞳を中心にして養育家庭の日常を軸に、それを取り巻くくつかの家族の愛憎ドラマが展開してきました。重なり重なりテーマを、ダンスという調味料をふんだんに、朝という時間に相応しい、ほのぼのとしたとても爽やかなドラマでありました。それは最終回、近藤正臣さんが扮する児童相談センターの若山さんの「平凡でなんでもないことがどんなに大事かってことがよくお分かりですね」という言葉に象徴されていました。とても素敵な言葉でした。

現代社会は、あらゆる刺激に囲まれています。ニュースでは、毎日のように悲惨な事件が報じられ、テレビドラマやワイドショーでは、視聴者をとり逃がさないために絶えず奇をてらった映像や言葉が使われています。日常生活のなかで、感動のことは発しているのです。あたりまえと通り過ぎてしまふような事柄でも大きな働きを感じ取っていくことができる。まさに他力に生きるといふことはそういうことなのではないでしょうか。

四

無限の生命の中の今という時間が、どんなに大切なものなのか。もつと言えば、人間として生れたこの尊い生命をどのようにに生きなければならないのかを考えることを、私たちの重要な課題にしなければならぬのではないかと思います。

社会や個人の時間のテンポが速くなり、いつの間にか、人としてあるべき大切な心が失われてしまつてきているのではないのでしょうか。よく考えてみなければなりません。

法 燈 明

ど、刺激にあふれています。現代人は、ひとりひとりが、いつの間にか感動しにくい環境をみずから作り上げているといつてもよいのではないのでしょうか。感動しにくいといふことは、独りよがりになりやすいといふことです。刺激を求め現実逃避的ないやしを求めているかぎり、日常のあらゆる出来事が「あたりまえ」のこととしか受け入れられず、感動のない生活を送り続けることになるのではないかと思います。「平凡でなんでもないことがどんなに大事かってことがよく分かりますね」といふことば、私たちにとても大切な言葉だと思います。

四

親鸞聖人や蓮如上人が、人生を見つめていく上で、現在・過去・未来の無限の生

清水の舞台から飛び降りる

現在大谷本廟のある鳥野辺の「おおたに」とは、藤原一族の火葬の場でありました。しかし、平安当時火葬できるのは、一部の方でありました。多くは「清水の舞台から飛び降りる」「死んだ気になつて」といふ言葉ができました。そこにあるのが、清水寺です。だから「清水の舞台から飛び降りる」「死んだ気になつて」といふ言葉ができました。これが、江戸時代になつて「命をかけて飛び降りれば願ひ事が叶う」と、本来の意味とは違った意味に伝わってしまい、江戸時代、本当に飛び降りた方が年間二百四十数人いたという記録があります。



宗派／教区／組の動き

宗派の動き

■親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

二〇一一(平成二三)年四月～二〇一二(平成二四)年、ご本山本願寺の御影堂におきまして、『親鸞聖人七五〇回大遠忌法要』が修行されます。神奈川組におきましては二〇一一(平成二三)年六月十五日に参拝を予定しております。神奈川組主催で団体参拝も行います。詳細が決まり次第各所属寺にご案内致しますので、是非ご参加下さい。

また神奈川組におきまして、二〇一〇(平成二二)年四月に、組主催の『おまちうけ法要』も行われる予定です。

教区の動き

■千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

九月十八日、浄土真宗本願寺派主催の「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で厳修され、全国各地より多数の参拝者が訪れました。

当日のご法要は荘厳な雅楽の音が流れ、非戦・平和の願いの中、参拝者全員で「正信偈」が勤められました。

神奈川組の動き

■神奈川組連続研修会

連研(連続研修会)は、門信徒の皆さまに、浄土真宗のみ教えを体系的に学んでいただくことを目的に偶数月の第三土曜日に開催されています。第八期は二〇〇六年六月よりスタートし、二〇〇八年四月をもつて全十二回の研修が修了しました。五月には築地本願寺にて修了式が行われました。

第九期は、二〇〇八年十月～二〇一〇年八月の日程で開催されています。連研に関するご質問は所属のお寺までおたずね下さい。

■神奈川組

仏教婦人会「めぐみ会」

「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会の交流と親睦をはかって

います。ダーナ(布施)活動として募金を行い、宗派を通して社会福祉に役立てる活動をしています。

二〇〇八年は「めぐみ会」が二〇周年を迎えました。横浜崎陽軒本店におきまして「めぐみ会二〇周年記念大会」を二二〇名の参加者で開催されました。記念講演は講師・一龍斎春水さんをお迎えして「金子みすゞ」をテーマに行われました。



講師・一龍斎春水さん



■第三十五回

南ブロックお寺の臨海学校

毎年、神奈川・静岡・山梨三県より小学三年生～中学三年生の子供たちが集まり開催されています。昨年は七月二十九日(火)～三十一日(木)静岡西組の担当で蓮舟寺(静岡県掛川市)にて開校されました。

本年は七月二十九(水)～三十一日(金)静岡東組の担当で、箱根の里にて開催の予定です。参加ご希望の方は所属寺までお問い合わせ下さい。



■神奈川組仏教壮年会

組内の各寺院から集まった会員が活発に活動中。宣正寺の早島大英師を講師に「歎異抄に学ぶ」というテーマで年四回程の研修会を開催しています。

十一月には、東京都内寺院の行脚を行い、七十四名の参加者により、墨田区の慈光院など五ヶ寺を参拝し、震災復興記念館を見学しました。



【二〇〇八年度慶弔】

▼結婚

〇八年六月 最乗寺
日野正胤様・良子様 ご結婚

... 身近な仏教語 ...

「未曾有」



私達が普段使う日本語の中には、当初から間違っただけで広まり、いつのまにかその意味として使われるようになった言葉は意外にも多くあります。

例えば「同じ穴のむじな」で知られる「むじな」という言葉は、本来「あなぐま」を指したのですが、姿かたちや習性が似ている事から間違っただけで「たぬき」を指す言葉としても使われ始め、地方によっては違いが明確になった今でも混同して使われています。

また、幼稚園や小学校で使われる楽器「カスタネット」の正式名称は、その考案者の名前にちなんで「ミハルス」と名づけられたのですが、残念ながら殆ど知られる事なく現在に至っています。

仏教語の中にも「往生」や「他力」など、本来の意味とは違う使われ方をしている言葉は多いのですが、間違っただけで世に知れたという意味では、今回取り上げた言葉「未曾有」は珍しいのかもしれませんが。

もともとはインドの言葉の「驚くべき (adbhuta)」を意味する言葉で、「未曾有」の他に「希有」、「難得」、「難思議」とも訳された、経典に見られる言葉でした。当初中国では良い意味で使われる事が多く、「今までに無かったほど素晴らしい」と言った意味で使われていたようですが、日本に伝わってからは良い場合にも悪い場合にも使われ、現在のようない「前例のない」と言う意味での用法になってきました。

問題の読み方は、「みぞう」若しくは「みぞう」と読みますが、辞典をひも解くと前者しか出てない事が多いようです。後者の読みは地方や年代によって差があるのかもしれませんが。そう考えると、他の読み方でも良いような気がしますが、結局問題は読み方ではなく、その言葉が指している意味と言うことなのでしょう。

もともとの意味は良い場合に使う言葉だったのですから、これからは是非良い場合に使って欲しいものです。

お寺を訪ねて (21)

JR相模線原当麻駅より徒歩で10分程歩いた所に、蓮向寺があります。近くには神奈川県立相模原養護学校があり、あたりは閑静な住宅街となっています。

蓮向寺は、もともと安芸教区安芸南組(広島県)にあった蓮向寺の北條了介師が首都圏における都市開教をこころざし、ご家族と共に相模原の地に移られました。昭和53年10月に築地本願寺相模原布教所として橋本に開設され、了介師が初代専任員に就任されました。即如門主がご門主になられてから始めて首都圏にできた布教所でした。しかしこの地で開教には多くの困難もあり、特に橋本という地は古くからの街が多く、新しく開教のこころざしをもって移ってきた相模原布教所が、すんなりと多くの方に受け入れてもらうという訳にはいかなかったようです。そういったこともあり、昭和54年4月、当時新興住宅地であった大野台に移転をしました。平成元年には了介師の長男不可思師が蓮向寺の住職に、次男大慈師が副住職にそれぞれ就任されました。平成5年9月、現在の当麻九坊院に本堂が完成し、それにともない大野台より移転をし、今にいたっております。

平成16年5月には神奈川県に編入され、わたしたちのお仲間となりました。そして非法人教会「蓮向寺教会」として、ご本山の承認を得ることができました。その知らせを聞いた了介師は同年8月ご往生されました。

そして平成20年10月にはそれまで蓮向寺を支えてくれたご門徒の方々とともに「相模原開教30周年記念法要」が勤められました。

また住職の不可思師は『歌うお坊さん/Song & BowzuMan』として音楽の分野でも活躍され、CDも出されています。蓮向寺の春彼岸法要では、「音楽講演」として、歌を歌い、その合間に自作の詩曲を通してお念仏のみ教え伝えています。

不可思師は『仏縁は血縁を超えて、より深い』をモットーに、ご門徒とのご縁を大切にされ、副住職の大慈師と共に都市開教に励んでおられます。

2009年5月16日(土)、築地本願寺ブディストホールにて、浅田恵真和尚の講演と、俳優の金田賢一さんが語り北條不可思師が歌う、『野聖物語～我が心の親鸞聖人～』が開催されます。入場は無料ですので是非ご参加下さい。

このように「歌うお坊さん」がいるお寺。ちょっと気になりませんか?是非足を運んでお参り下さい。

北條不可思公式サイト <http://www.fukashihojo.com/>



歌うお坊さんのいるお寺

れん こう じ きょう かい

蓮向寺教会

相模原市当麻 863-30

ポストエイオス研究会
インターネットのホームページを開設。
法話や仏教情報などのページです。
<http://www.posteios.com>



テレホン法話
電話で仏さまのみ教えを!

●築地本願寺こころの電話
TEL.03(3541)0294

●長念寺テレホン法話
TEL.044(911)8282

ビハーラ電話相談
— 老いの悩み、病の苦しみに —
相談日▶毎週月・金/午後2時～5時
浄土真宗東京ビハーラ(築地本願寺内)
TEL.03(5565)3418

おててのしわとしわをあわせて…しあわせ

日本の美・日本の心をお届けします。

お仏壇のはせがわ



しあわせ少女ゆうかちゃん



昭和59年 京都西本願寺阿彌陀堂
昭和大修復事業
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子
三重塔堂内修復事業
昭和63年 福岡証券取引所
業界初の株式上場
平成6年 大阪証券取引所第2部
株式上場

グループ会社
(株)はせがわ美術工芸
(国家美術品、寺院神社)
(株)はせがわ仏壇工房明日香工場
(純金箔仏壇)
(株)はせがわ仏壇工房大川工場
(唐木仏壇)

業界初の上場企業
関東地区82店舗・全国で115店舗

～お仏壇、お仏具等～
特別価格
大ご奉仕中!!
※セール商品は除きます。

墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。

横浜・川崎地区の店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	☎0120-767-698
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	☎0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区戸塚町4670-1	☎0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	☎0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-1-1 らびすた新杉田1F	☎0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	☎0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	☎0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	☎0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	☎0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	☎0120-767-577
町田森野店	町田市旭町1-8-20	☎0120-768-201
向ヶ丘遊園店	川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘	☎0120-594-345
港北ニュータウン店	横浜市都筑区荏田東4-2-24 サンステージ北村1F	☎0120-760-576

営業時間／午前10時～午後6時30分 日曜・祝日も営業いたしております。

わたしたちのお寺です

浄土真宗本願寺派 神奈川組

えんこう じ 円光寺	〒210-0814 川崎市川崎区台町 4-21 石川 康承 ☎044-266-2677
ほうえん じ 宝円寺	〒210-0838 川崎市川崎区境町 5-10 飯田 琢亮 ☎044-222-3941
こうとく じ 光徳寺	〒210-0848 川崎市川崎区京町 1-14-3 林 信順 ☎044-333-3997
しょうらく じ 正楽寺	〒212-0016 川崎市幸区南幸町 2-49 佐々木俊博 ☎044-522-1961
こうがん じ 高願寺	〒211-0051 川崎市中原区宮内 4-3-12 宮本 義宣 ☎044-777-6544
ちやうねん じ 長念寺	〒214-0014 川崎市多摩区登戸 1416 小林 泰善 ☎044-911-2549
じやうねん じ 常念寺	〒215-0033 川崎市麻生区栗木 203 古市 道仁 ☎044-988-0205
じやうしょう じ 浄照寺	〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼 2-5-7 加藤 孝充 ☎044-855-2780
ぜんりゅう じ 善龍寺	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤分町 29-51 斎藤 幸紹 ☎045-491-9431
ぜんきやう じ 善教寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2396 平等 勝尊 ☎045-541-7684
きやうぐく じ 教覚寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2395 (代務) 平等 勝尊 ☎045-531-5050
こうりん じ 光輪寺	〒223-0064 横浜市港北区下田町 3-2-9 村石 恵照 ☎045-561-8671
とうぜん じ 東善寺	〒224-0001 横浜市都筑区中川 7-18-29 長谷尾芳雄 ☎045-911-3509
ちやうとく じ 長徳寺	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1 平塚 大乘 ☎045-911-7351
じゅふく じ 寿福寺	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1 多田 龍空 ☎045-942-3721
さいじょう じ 最乗寺	〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 1277 日野 教秀 ☎045-941-3541
じおん じ 慈恩寺	〒224-0055 横浜市都筑区加賀原 2-18-1 小泉 敬信 ☎045-934-8648

さいしやう じ 西勝寺	〒225-0003 横浜市青葉区新石川1-10-8 藤下 梯乗 ☎045-911-0156
ちやうえん じ 長延寺	〒226-0015 横浜市緑区三保町 2440 雲居 玄道 ☎045-932-3348
れんこう じ 蓮向寺	〒229-0016 相模原市当麻 863-30 北條 大慈 ☎0427-77-3011
さいがん じ 最願寺	〒230-0001 横浜市鶴見区矢向4-19-18 藤江 義昭 ☎045-571-4694
ほうこう じ 宝光寺	〒231-0062 横浜市中区桜木町 3-5 藤田 恭爾 ☎045-201-3509
ぜんねん じ 善然寺	〒232-0061 横浜市区南区大岡 2-26-17 長谷山顕俊 ☎045-741-2351
せんしやう じ 宣正寺	〒232-0063 横浜市区南区中里 3-20-18 早島 大英 ☎045-731-2679
じやうこう じ 浄光寺	〒241-0005 横浜市旭区白根 8-1-18 白井 浄信 ☎045-953-3650
せいらい じ 清来寺	〒241-0034 横浜市旭区今宿南町 1895 曾我 求真 ☎045-951-0012
とくぞう じ 徳蔵寺	〒241-0816 横浜市旭区笹野台 3-9-9 寺田 崇裕 ☎045-364-2266

本願寺築地別院都市開教布教所

横浜布教所 じやうれん じ 住蓮寺	〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19 開田 蓮成 ☎045-341-7455
磯子布教所 しんきやう じ 真行寺	〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台25-47 中戸 達雄 ☎045-623-4480
青葉布教所 さいほう じ 西法寺	〒225-0025 横浜市青葉区鉄町 1654 西村 信也 ☎045-349-7977

地域内の東京教区寺院

なかみ じ 妙延寺	〒215-0002 川崎市麻生区多摩美 1-27-1 山本 浩真 ☎044-966-5304
にしやう じ 覺永寺	〒225-0004 横浜市青葉区元石川町 6391 喜代多證宣 ☎045-901-0570

「神奈川組」とは…

私たちの教団(浄土真宗本願寺派)は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組長/小林 泰善	相談員/藤江 義昭
教区会議員/佐々木俊博	相談員補佐/古市 道仁
副組長/長谷山顕俊	
根本 猛(門徒)	
副組長/早島 大英	

浄土真宗の教章(私の歩む道)

宗名 浄土真宗

宗祖 親鸞聖人

(開山) 誕生 一七三年五月二十一日
(承安三年四月一日)

往生 一六三年一月十六日
(弘長二年十一月二十八日)

宗派 浄土真宗本願寺派

龍谷山 本願寺(西本願寺)

阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

聖典

・釈迦如来が説かれた『浄土三部経』
『仏説無量寿経』 『仏説観無量寿経』
『仏説阿弥陀経』

・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教
『正信念仏偈』(教行信証) 行巻末の偈文

『浄土和讃』 『高僧和讃』 『正像末和讃』

・中興の祖 蓮如上人のお手紙
『御文章』

教義

生活

宗門

阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来の信心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歓喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。

このたび、「ご門主が新しい「教章」を制定されました。これまでの「教章」は昭和四十二年に当時の「ご門主(勝如上人)前門さま」が制定され、四十年あまり「門徒の規範」とされてきました。「ご門主は「教章は浄土真宗の要旨であるとともに、み教えを理解していただくための手引きでもあります。身近に備え、折に触れて参照して、浄土真宗に親しんでください」と期待されています。



浄土真宗本願寺派(西本願寺)

組報かながわ No.22

■発行日 2009年3月15日
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒214-0014 川崎市多摩区登戸1416 長念寺内